

# 研究協力をお願い

昭和大学横浜市北部病院・昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

睡眠がアラーム療法の有効性に与える影響について
<b>1. 研究の対象および研究対象期間</b> 2018年1月から2023年12月までの間に昭和大学横浜市北部病院・昭和大学藤が丘病院に通院中の夜尿症患児のうち、過去に小型睡眠脳波計で睡眠データを取得しアラーム治療歴のある患児さん
<b>2. 研究目的・方法</b> 夜尿症は子どもたちの約5%前後にみられ、原因の1つとして、尿意で覚醒できないという睡眠の問題が挙げられています。夜尿症の治療方法の第一選択の一つにアラーム療法があります。有効率は約70%と非常に有効な治療法ですが、就寝中に夜尿をしたタイミングでアラームが鳴るため患児本人だけでなく一緒に寝ている家族のストレスも大きくなり、約3割の患者さんが治療を途中で中断してしまうことが最大の問題点です。そのためアラーム療法が奏功しやすい患者を治療開始前に推測することができれば治療方針の決定に有用です。そこで、今回過去に睡眠脳波計で睡眠データを取得した患者の中からアラーム治療が奏功した人と治療効果がなかった人の睡眠の違いを調査することが目的です。
<b>3. 研究期間</b> 昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026年3月31日まで
<b>4. 研究に用いる試料・情報の種類</b> 患者背景(性別、年齢、夜尿日誌で夜尿回数、治療内容、睡眠アンケート、初診時間診表)および睡眠データ
<b>5. 外部への試料・情報の提供</b> 該当いたしません
<b>6. 研究組織</b> ・研究責任者 研究機関名 : 昭和大学医学部小児科学講座 昭和大学横浜市北部病院こどもセンター 氏名 : 渡邊常樹

## 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学横浜市北部病院こどもセンター

氏名：渡邊常樹

住所：横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35 - 1

電話番号：045 - 949-7804